

名古屋学院大学 名古屋キャンパス 白鳥学舎



所在地：愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号
 建築面積：4,100㎡
 延床面積：20,100㎡
 構造・規模：SRC造、地上8階、塔屋1階
 設計：山下・日建設計共同企業体
 施工：建築／鹿島建設(株)
 電気／(株)トーエネック
 竣工：平成19年1月

創設120年の歴史ある名古屋学院大学。平成19年4月には、都心型の名古屋キャンパスが開設され、これまでの瀬戸キャンパスとのダブルキャンパスでより広がりのある教育環境が実現。

地域社会と共生する開かれた施設計画で、洗練された都会的な大学キャンパスを創造

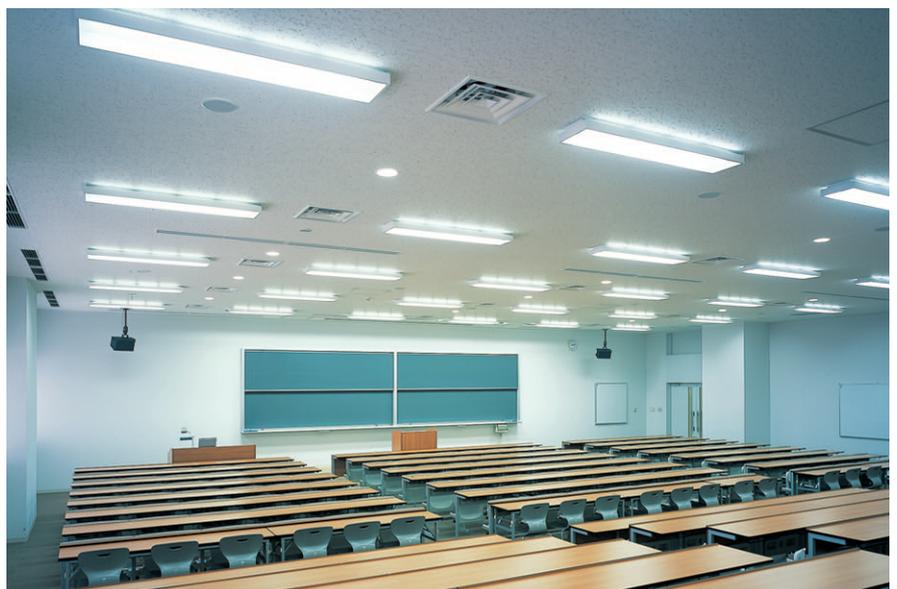
名古屋キャンパスは名古屋駅から電車で約10分。白鳥学舎とすぐ近くの日比野学舎共に新たに完成。二つの学舎は積極的に市民に開放され、学生・教職員による地域貢献活動を推進するなど、情報発信と国際交流の拠点としても活用されています。白鳥公園と白鳥庭園の豊かな環境に囲まれた白鳥学舎はガラスとレンガ調タイルを多用した近代的な建物。最先端の教育設備を配置した教育・学術センターのほか、1000席を超えるレストランなど、教育とキャンパスライフを楽しめる曙館、ガラス壁が斬新な泉館と体育館、それに、チャペル、クラブハウス、テニスコートなどで構成されています。

教室の基本照明は調光形教室専用器具で、プロジェクタ利用時は調光形ダウンライトで対応

施設の核を担う1階から4階まで連続のアトリウムは、吹抜けを利用した自然換気、北面採光による安定した昼光利用で明るく開放的な空間です。照明は吹抜け天井に42Wコンパクト形蛍光灯ランプ3灯用ダウンライト(電動昇降装置付)を16台設置し、高さのある空間と各階のラウンジと階段の足元を明るく照らし出しています。メンテナンス時はスイッチで照明器具を床上1mまで降ろして停止できるようにし、器具を保護しつつ、安全にスピーディな作業を可能としています。300人教室の照明は、学生のパソコン持ち込みを考慮し、ベースには遮光角24°以上(A-A方向)の適正グレア制御の教室専用器具(調光形)を採用。照度センサと連動し、初期照度補正制御と昼光利用制御で省エネを図りながら目の負担を軽減しています(設定平均照度750lx)。また、プロジェクタが使用されるため、32Wコンパクト形蛍光灯調光形ダウンライトも設置し、30%~100%の連続調光で見やすい光環境を確保できるようにしています。

曙館の1、2階レストラン照明は、中央スペースにスクエア器具を均等配置。その周囲のアーチ状のカーテンウォール付近はダウンライトを配置し、賑やかな学生ラウンジの雰囲気を作成しています。ガラスで囲われた広々とした情報教育フロアは、利用形態の変化にも柔軟に対応できるようスクエア器具とダウンライトとの組合せパターンで、快適な室内環境を得ています。

体育館の照明は、400Wメタルハライドランプバンクライト(電動昇降装置付)を均等配置し、平均照度750lxを確保しています。



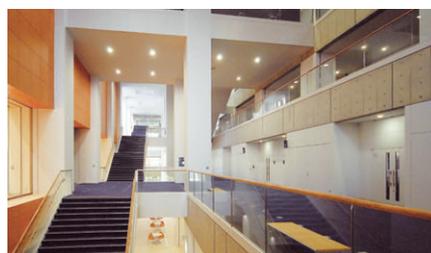
300人教室の照明：ベース照明に32WHf蛍光灯2灯用調光形教室専用直付器具を採用し、初期照度補正制御、昼光利用適正照度制御。プロジェクタ使用時は24Wコンパクト形蛍光灯ダウンライト(30%~100%調光)で対応



賑やかな雰囲気を創出している図書スペースの照明



スクエア器具中心の照明で落ち着いた学術情報センター



1階から4階まで吹抜けのアトリウム空間



ガラス面の多い斬新な体育館はバンクライトを採用

■主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
館内	教室専用直付器具(調光形)	FHT-42764-PD	807	32WHf蛍光灯×2
	埋込器具	FHR-33328K-PR(改)	215	32Wコンパクト形蛍光灯×3
	ダウンライト	FHD-31004-PM	882	24Wコンパクト形蛍光灯
		FHD-31004-PD	219	32Wコンパクト形蛍光灯
		FHD-31004-PM	680	32Wコンパクト形蛍光灯
		ダウンライト(電動昇降装置付)	DDU-4230-200(改)	36
テニスコート	バンクライト	HBL-40138BK	90	400Wメタルハライドランプ
	テニスコート用照明器具	MT-10038	22	1kWメタルハライドランプ